

第3学年 国語科学習指導案

指導者 足立 操

1 単元名 いろいろなお祭りについて調べよう 「つな引きのお祭り」

2 単元の目標

- 地域のお祭りや行事について関心をもって調べ、友達に分かりやすく伝えようとする。

(関心・意欲・態度)

- 友達に調べたことが伝わるように、書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことができる。(書く)

- 中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことができる。 (読む)

- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解することができる。

(言語についての知識・理解・技能)

3 単元について

(1) 教材観

本単元のねらいは、新学習指導要領第3学年及び第4学年の内容「C読むこと」(1)イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」を踏まえたものである。この事項に関しては、「読むことによって何を得ようとするのか、またどのように活用しようとするのかなどについて考える必要がある」、「中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりするなどして、整理することが大切である」と述べられている。

本教材は、運動会等で児童にもなじみ深い綱引きが取り上げられているので、興味をもって読むことができるを考える。文章は、「はじめ」「中」「終わり」の三つの部分で構成されている。「中」の部分で紹介されている三つのお祭りは、それぞれ「あらまし」「準備」「綱引きの様子」「由来・願い」の四つの観点で述べられているので、文章構成が分かりやすくなっている。また、文章に即した写真も多く掲載されているので、児童にとって内容をとらえやすい教材文である。

(2) 児童観

これまでの学習から、本単元についての児童の実態は次のようにある。(平成21年9月 第3学年*人)

- | | |
|-------------------------------|----|
| ・形式段落に分けることができる。 | *人 |
| ・段落ごとの中心文を見つけることができる。 | *人 |
| ・要点をまとめることができます。 | *人 |
| ・文章を「はじめ」「中」「終わり」に分けることができます。 | *人 |
| ・指示語がさす内容が分かる。 | *人 |

1学期の「自然のかくし絵」では、要点のまとめ方を身に付けることに重点を置いて学習してきた。しかし、形式段落に分けることはできるが、中心文を見つけて要点をまとめることができないと身に付いていない児童が多い。中心文については、一文すべてを書き抜くことができなかつたり、キーワードがとらえられていなかつたりする児童も見られる。要点のまとめ方は、本単元でも再度指導していきたい。

(3) 指導観

本単元では、児童が目的意識をもって教材文を読めるようにしたい。そこで、教材文の読み取りの前に、既習事項である「分かりやすく伝えるための必要な要素である『いつ』『どこで』『だれが』『どうした』を落とさずに書くこと」(出来事を伝えよう)、「はじめに中心となることを言ってから細部を説明する」(中心文をはっきりさせてせつ明しよう)ことを生かして、身近なお祭りや行事を紹介する文章を書かせる。この文章をもっと分かりやすいものにするために、書き方を「つな引きのお祭り」から学ぶ意識をもって教材文に向かわせる学習過程を組む。

文章を正しく読むために、意味のまとまりごとに小見出しをつけたり、段落の内容を比べたりできるようなワークシートを工夫し、文章の全体構造を把握できるようにする。また、筆者が読む人に生き生きと綱引きの様子を伝えるために使っている具体的な数字や掛け声、臨場感を出す言葉に着目させる発問を工夫して、読み取りの焦点化を図る。さらに、筆者の文章から分かりやすい表現を抜いた文章を吟味する活動を取り入れ、筆者の表現の工夫に気付かせることで研究主題に迫りたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
地域のお祭りや行事について興味をもち、積極的に調べようとしている。	紹介したい事柄の中心が分かるように文章を書いている。	事例の説明の仕方に注意しながら、それぞれのお祭りについて書かれている内容を正しく読み取っている。	指示語や接続語は、文相互の関係とともに、段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなることを理解している。

5 指導と評価の計画 (17時間扱い 本時 11時)

段階	主な学習活動		主な評価
第一次 つかむ	1 身近なお祭りについて、参加したことや知っていることを発表する。そして、教材文を通読し、初発の感想をまとめる。 2 身近なお祭りについて調べ、壁新聞にまとめるための計画を立てる。 3 身近なお祭りについて紹介する文章を書く。		<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読んで、初発の感想をまとめている。 (ノート・発言) 学習の見通しがもてている。(ノート、発言) 身近なお祭りについて、既習事項をもとに文章を書いている。 (ノート・観察)
第二次 ふかめる	4 全文を読んで、「はじめ」「中」「終わり」に分ける。さらに、「中」には、三つの事例が書かれていることをおさえる。 5 「はじめ」と「終わり」を読み、「中」の内容を予想する。 6 刈和野の綱引きのお祭りは、どんなお祭りかを読み取る。 7 刈和野の綱引きの様子が分かりやすく書かれている文や言葉を見つける。 8 真栄里の綱引きのお祭りは、どんなお祭りかを読み取る。 9 真栄里の綱引きの様子が分かりやすく書かれている文や言葉を見つける。 10 宝木の綱引きのお祭りの文章の書き方を、刈和野と真栄里の二つの文章と比較しながら読む。 11 分かりやすい表現を抜いた「宝木の綱引き」の文章を分かりやすく直す。 (本時) 12 筆者の表現を確認し、この学習で分かったことをまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> 文章全体を「はじめ」「中」「終わり」に分けることができる。「中」に三つの事例が紹介されていることをとらえている。 (ノート) お祭りには「それぞれの地方の人たちのねがいやいのりがこめられている」ことをとらえている。 (ノート、発言) 「あらまし」「準備」「綱引きの様子」「願い」の四つの観点に分け、小見出しをつけている。 (ワークシート、発言) 具体的な数字や掛け声などが入っていると、分かりやすくなることをとらえている。 (ワークシート、発言) 刈和野と同じ四つの観点に分け、小見出しをつけている。 (ワークシート、発言) 分かりやすい表現を見つけている。 (ワークシート、発言) 刈和野と真栄里のお祭りと同じ内容・構成で書かれていることをとらえている。 (ワークシート、発言) 分かりにくい表現になっている部分を見つけている。 (ワークシート、発言) 筆者は、分かりやすい文章になるように、表現を工夫していることに気付いている。 (ワークシート・発言)
第三次 生かす	13~17 教材文で学習したことをもとに、地域のお祭りについて取材し、調べたことを壁新聞にまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> 自分の地域のお祭りや行事について、教材文で学習した観点や筆者の表現のよさ、文章の組み立て方を生かして、壁新聞を書いている。 (ノート、壁新聞)

6 本時の学習

(1) 目標

分かりやすい表現を抜いた「宝木のつな引き」の文章から、分かりにくい文や言葉を見つけることができる。

(2) 研究主題に迫るための手立て

・分かりやすい表現を抜いた「宝木のつな引き」の文章を、前時までの学習を生かして「分かりやすい表現」の観点から吟味することにより、筆者の表現の工夫に気付くことができるようとする。

(3) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点（○評価）
1 前時までの学習を振り返り、学習のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">分かりやすい文章に直そう。</div>	・前時までの学習を振り返り、刈和野と真栄里の綱引きのお祭りの文章は、分かりやすい表現（具体的な数字や掛け声、臨場感を出す言葉）が使われていたことを確認する。
2 分かりやすい表現を抜いた「宝木の綱引き」の文章を音読する。 ・一斉読み	・様子を頭に思い描きながら読むように指示する。 ・分かりにくい文章になっていることを確認し、これまでの学習を生かして、分かりやすい文章に直そうとする意欲をもたせる。
3 分かりやすい表現を抜いた「宝木の綱引き」の文章を分かりやすく直す。 (1) 分かりやすく直せる文にサイドラインを引く。 ○具体的な数字を入れるとよい ・綱の長さ ・綱引きの回数 ○臨場感を出す言葉を入れるとよい ・掛け声 ・文末の言葉を変える ○詳しく説明している言葉を入れるとよい ・綱引きの様子 (2) 意見交換をする。	・分かりやすい表現を見つけるポイントを再度確認し、読みの焦点化を図る。 ・分かりやすく直せる文にサイドラインを引くとともに、どのように直すと分かりやすくなるかを行間に書き込むように指示する。 ・「発表の仕方」を掲示し、だれもが自信をもって発表できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content;">○これまで学習した分かりやすい文章の観点から、分かりにくい部分を見つけている。 (ワークシート・発言)</div>
4 綱引きをしている写真（P33）を見て、その様子が伝わるように文章を書く。	・活動の時間を指定し、早く終わった児童には、分かりやすく伝えるための必要な要素の抜けがないか確認させる。『だれが』が抜けた文章にしておく。 ・戸惑っている児童に対しては、刈和野と真栄里の文章で分かりやすく書かれたところを確認し、同じように書かれているところを見つけるよう助言する。
5 本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容を知る。	・戸惑っている児童には、これまでの学習を想起させ、分かりやすい表現のポイントを助言する。 ・友達の表現のよさを認め合い、次時からの活動の意欲付けをする。 ・本時の学習について、観点をもとに自己評価できるようにする。